

TOREK 自然農法 ホットニュース

第 226 号 2017. 2. 25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

食道の違和感に自然野菜！

群馬県 中島陽一



我が家は 17 年前より、自然農法のりんごや自然野菜を栽培しています。私は 3 年前までは大型トラックの運転手をしていましたが、その年の 1 月に椎間板ヘルニアを発症してからは、実家に戻り、症状が治まってからは家の仕事をしています。

私は学生時代、長野の農業大学校に入学してから 2 年間は、土壌肥料部という土の検査を担当していたため、卒業までの間は、あちらこちらの圃場の地下水を汲み上げ、データをとっていました。東京ドームほどの広い試験場の中で、特に有機肥料をたくさん施した土を調べると、発がん物質にもなる硝酸態窒素濃度が高かったのです。私は卒業論文として、アメリカ人の乳児に硝酸態窒素濃度の高い水でミルクを溶いて飲ませると、血液が紫色になり、チアノーゼを起こし、その乳児たちはブルーベビーと呼ばれ、死に至ることもあり、そのことを調べて発表しました。

これほどに肥料に頼ることの怖さを人一倍知っていましたが、無施肥農法は一般より収穫も少なく、大きさも小さくて、見劣りすること、減多に見向きもされず、馬鹿にもされることは判っていました。しかし、父や母の自然農法に対する信念は固く、当園に見えるお客様に無施肥の大切さの話をしている姿を目の当たりにしていました。

特に最近になってから、私の体にも変化が出て、食道がつっかえたような違和感を覚えていました。友人の松岡さんはじめ何人かの方たちに自然農法の野菜は特に美味しいと言われ、私も我が家の野菜をいま一度しっかり認識して食べよう、体に良い作物を取り入れようと、秋の終わりごろから自分で料理を作るよう心がけ、煮込みうどん、チャーハンに、自然野菜を入れて試すと、今まで何気なく食べていた野菜たちの美味しさは、私の体の中の細胞まで蘇らせ、体の力さえみなぎってくるほど、一言では言えない、一つ一つの細胞までしみわたったような、ワクワク感と充実感が私の心や体を満たしてくれるのです。気付くと、のどの違和感も少なくなっていました。自然野菜ありがとう。大地に感謝。この目に見えないエネルギーが岡田茂吉師の言う X の力と確信しています。

ぜひ皆様も、たくさん自然野菜を食べて、素晴らしい体験をしてほしいと思います。

生産者消費者ミーティング 2017

2 月 19 日(日)、今年度の頒布会や各行事などで販売、使用する自然農法の作物について、生産者やスタッフで話し合いが持たれました。

冒頭に、2016 年は八王子での販売量が、東中野を初めて上回ったというお話がありました。八王子では生産者の方と直接対面して購入することができますので、消費者側ひとりひとりの意欲が感じられると思いました。

以下、参加者のお話をご紹介します。

・すずき農園 「自家採種に取り組んだが、難しかった。市販の種でも良いものがあるようなので、探していきたい。販売に適さないものも加工品にするなどして、無駄にしない。楽しみにして下さる人がいることが励みになる。毎日の記録をしっかりとるようにしたい」

・市川生産グループ 「新しい苗を植え、しっかり育てていきたい。子供でも味の違いを感じとれる」

・菜園金野 「年間を通して、なるべく多くの作物を提供し、品切れしないように作付を増やした」

・中島農園 「自然農法のりんごをチップにして販売している。自然農法の作物は人を癒せるほどのエ



- ・エネルギーを持っていることを伝えていきたい」
- ・堀農園 「頒布会にもっと参加したい。お客様の反応や表情を見ることが力になるし、こちらからの発信もしていきたい。また他の生産者との交流を通して、普及につながればと思う」
- ・長柄山自然農園 「卵を産まなくなった鶏も、大切な命なので、無駄にははいけないと思う。なるべくひき肉にするなどして提供したい。また、作物があまり出来なかった畑で、子供たちが自然農法の実践をしはじめたら、出来るようになったのでびっくりした」
- ・ジョリフィユ 「井上百貨店での販売に立つ生産者が変わると、いろいろな良い話が聞けると、お客様が喜ばれる。お客様が販売会のことをお友達などに伝えているらしい」
- ・販売係 「まず係自身が自然農法の作物と市販の作物を食べ比べして、自分が体験したことをお客様に伝えるようにしている」
- ・食事係 「青年たちにはできるだけ自然農法のもので食べてもらえるように取り組む」…などありました。皆さんの熱意を感じました。それぞれの立場から、ひとりひとりができることを取り組んで、自然農法の普及につながればと思います。(編集部)

2016 りんご収穫！中島農園

左の中島陽一さん(息子さん)の体験にもある通り、群馬の中島敬太郎さんが、りんご栽培を一部自然農法に切り替えて 17 年になります。毎年毎年ドラマがあり、昨年 2016 年も数々の問題を乗り越え、収穫に至りました。

まず昨年は、冬の温かい時期の影響なのか、りんごの花が例年より 10 日ほど早く、4 月半ば過ぎに咲き始めました。これにより花が遅霜の害に遭いました。対策として、花摘みを遅らせ、摘果のときに実をしっかりと見て残す方法をとりました。また 9 月は今までになく雨が多く、日照時間が極端に少ないため、様々な病気が発生し、早期落葉もあり、りんごの熟度も遅れたとのこと。太陽の力の大切さを痛感したそうです。そして今度は秋の低温です。例年より 1 ヶ月早く、11 月後半に雪が降り、-5℃以下は品質低下につながる。雪の中を必死で手分けして、夜は投光器まで使い、収穫をしたそうです。



昨年 4 月 28 日 遅霜被害の花



昨年 10 月 20 日の様子

このような数々の困難があり、周囲の園が不作と騒ぐ中、当初、群馬の環境では不可能とも言われていた自然農法のりんごは、なんとか自然の変化に順応し、実がつき、3 年連続で販売もできました。また悲願の苗木も成長を見せ、実がなり、そこからの収穫もあったとのこと。

今年中島さんは「食には力があり、良い作物は人の心と体を変えていく。しっかりした食べ物を作り、広げていきたい」と強く言われています。実際に稲作を自然農法に切り替えた仲間の生産者もいらっしやいます。中島農園から目が離せません。(編)

お知らせ

- ★ 自然農法頒布会 2 月 26 日(日) 東中野会場 10:00～ 売り切れ次第終了
- ★ 自然農法頒布会 3 月 18 日(土) 鎌ヶ谷会場 11:00～ 売り切れ次第終了

無施肥無農薬栽培物の販売予定

3 月 3 日 於：伊都能売会館

生産者の方々が直接販売されます。

東京都八王子市長房町 57 042-665-6369

- 市川生産グループ：せん茶・ほうじ茶(ミホッコも有り)、ほうじ茶ティーバック
- 長柄山自然農園：卵、燻製卵、ひき肉、大根
- きじま平自然農産：自然米、納豆、米粉、きな粉、甘納豆、ブルーベリージャム
- 菜園金野：サツマイモ、里芋、小松菜
- 中島農園：自然のりんごチップ、梅干、ほうれん草
- ジョリフィユ：ひなまつりクッキー、マドレーヌ、プリン 他

お問い合わせ先：編集部 針貝 FAX：03-3369-3324 e-mail：naturefarming@torek.jp
TOREK 活動のホームページもご覧ください。 <http://www.torek.jp>